

# 共同研究事例V

共同研究者  
 学校法人五島育英会  
 東京都市大学

# 地域活性化と 環境共生を両立する 低炭素コミュニティの 実現手法に関する研究

## 概要

現在、スマートシティ事業は日本各地で進められています。川崎市においても、川崎駅前、武蔵小杉駅前など、土地の高度利用地区を中心に事業が進められ、その成果が上がりつつあります。

しかし、今後はこれらの取組を、一般的な既成市街地へと普及・展開していくことが重要です。

東京都市大学（東京都世田谷区）と川崎市は、2014年度から、既成市街地における低炭素なまちづくりの実現に向けて、汎用性のある低炭素コミュニティの実現手法を検討しています。

既成市街地への普及・展開には、二酸化炭素排出量の削減の取組だけでなく、防災性や生活利便性の向上、地域商業の活性化など住民や地域事業者にとって具体的にメリットのある仕組にすることが求められています。また、継続して進めていくためには、住民や地域の関係者自らがコミュニティレベルで（行政や専門家等の後方支援を受けながら）取組む内容を企画し、それを運営する仕組が必要となります。

2014年度は、川崎市内の地域特性のデータベース作成や商店街や市民団体を対象に聞き取り等を行い、低炭素商店街の実現への課題等を抽出しました。また、登戸地区の2つの商店街を対象地域として決定しました。2015年度は、具体的な取組として、商店街関係者、地域活動の団体、研究者が定期的に会合を開き、商店街の低炭素活動（イベント開催・エコポイントカード）を中心としたまちづくりについて効果検証や地域データベースの作成を行っています。

この研究により、汎用モデルが構築されることで、今後、市内各地域で地域が主体となった低炭素なまちづくりが展開・促進されることが期待されます。

## 低炭素社会の構築

### 川崎市の持つ資源

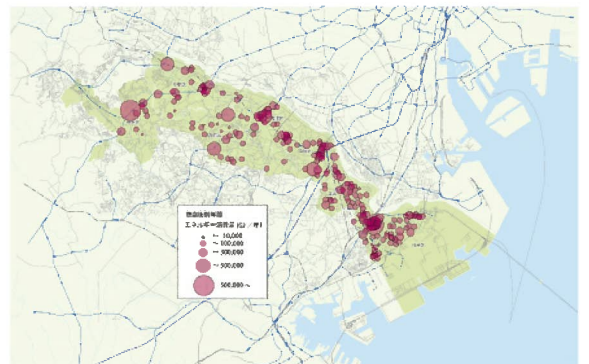
- フィールドの提供
- 商店街・登戸地区に係る基礎データ
- 市関係部署や市民団体との連絡調整

### 共同研究者の持つ資源

- 地域連携に係る知見
- 低炭素都市シミュレーション技術
- まちづくりに係るノウハウ

### 2014年度 低炭素商店街の実現への課題の抽出

- 川崎市の地域特性の抽出（データベース作成）
  - 商店街における低炭素施策メニューの整理
  - 実証展開地区の選定と企画（登戸地区の2商店街を決定）
- 登戸東通り商店会
  - 区役所通り登栄会商店街振興組合



昨年度の「年間エネルギー消費のシミュレーション」

### 2015年度 低炭素コミュニティの実現手法の検討

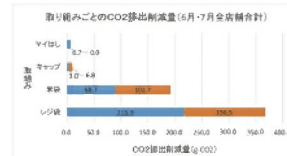
- 空き地利活用事業の実施（イベント開催）
- 商店街エコポイント事業の実施（エコポイントカードの開始）
- コミュニティにおける低炭素型ライフスタイルの普及促進構造の把握と普及展開手法の提案（周辺地域アンケートの実施）
- 既成市街地における段階的な環境技術導入の検討手法の構築と地域データベースの構築



登戸エコ会議



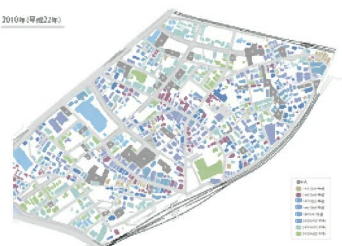
エコポイントカード（チラシ）



エコポイントカードから得たデータ①



エコポイントカードから得たデータ②



地域データベース（建物年代別）